わが家の危機管理　今週のワンポイント

週	放送日	テーマ	放送内容（要旨）
第1週	5月2日	**第2波、第3波への備え**	このたびの津波、房総半島では第2波、第3波と次第に高くなり、結果的には第3波が最大だった。第1波は地震の1時間後、その40分後の第2波、さらに50分後の第3波。千葉県旭市の犠牲者の中には、避難所から「もういいだろう」と帰宅して、第2波、第3波に飲み込まれた方がいた。こうした津波の危険性をしかりと記憶にとどめておかなければならない。岩手県大船渡市を襲った時速50キロかというジェット噴射現象、海抜30メートル地点までという到達点も忘れてはならない。
第2週	5月9日	**断水時のトイレ洗浄**	避難所生活や停電断水で困るのがトイレ。排泄を我慢して水分摂取を控えると脱水症状になり体力低下に繋がる。洋式トイレにポリ袋を入れ、ポリ袋の中に新聞紙を敷く。使用後に、ポリ袋の口を閉める。トイレの水が流せない時は、便器のボウル面にバケツに汲んだたくさんの水を流し込む。水量は5～8リットルあれば十分だ。その後、におい防止に約3リットルほど流し込む。その他扱いについて、この際、取扱説明書や各社のHPで調べておこう。
第3週	5月16日	**家族が帰宅困難者に**	この度の大震災でご家族に帰宅が困難となった方はいませんか。職場はもちろん、買い物などに出かけた先、あるいは学校で災害が発生するかもしれない。旅行先での被災もありえる。家族でさまざまな想定に基づき、その時、どうすべきか。連絡の取り方を含め、シュミレーションしてみてほしい。基本は、混乱を押しての帰宅を急がないこと。徒歩で帰宅する場合は、できれば家族などが落ち合って一緒に。靴はべた底の物、できれば飴・ドロップ・ペットボトルを持って。情報は真偽を確かめて。
第4週	5月23日	**液状化**	千葉県浦安市の惨状を見に行ってみてはどうか。道路はうねり、マンホールが50センチほど浮き上がっている箇所も。建物は特に配管、パイプの被害が大きい。南浦安高校は半年間使用できないという。防波堤も陥没の危険があり立ち入り禁止の場所も。断水で使用できないトイレなど随所に。噴出した砂が町の至る所に。始末に終えないのは乾いた砂が町中飛び散っている。埋めたて地や砂地では専門家によるチェックを受け、場合によっては土壌改良も考慮すべきではないか。転ばぬ先の杖というではないか。
第5週	5月30日	**災害弱者は地域で守ろう**	高齢者、障害者に加えて外国人も災害時には孤立しがちだ。声かけがすべての基本、安否確認から避難所へ誘導となる。誰が誰を担当するのか近隣で予め決めておくことが望ましい。近隣の状況によっては、学生ボランティアの協力を仰ぐことも有効ではないか。また、避難所では意思表示を助けるボードを作成するだけでも心強い。相手の立場に立って考えたい。災害は切迫感に乏しいという場合、防犯や防火などより日常的な危機感を感じやすい活動として始めるのが良い。近隣での助け合いの心はすべてに通じるのは言うまでもない。